

Title	シーザー征服前のイギリスに見たるギリシヤ文化の流れ
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.3 (1929. 11) ,p.42(364)- 42(364)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19291100-0042">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19291100-0042</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## シザー征服前のイギリスに

## 見たるギリシヤ文化の流れ

西紀前五五年と五四年の兩度に亘りシザーが今日のイギリスの地を征服した記事により、その前後よりしてローマとブリテンとの間に何等かの交渉があつたことは何人も推測し得るところであるが、今日に於ては啻にローマとの關係に止らずギリシヤ文化の一部すらも既にプレトン人の間に傳はつてゐたことが明かである。それは大英博物館の陳列棚に見られるケルト人固有の金銀貨の上に、紛ふ方なきマケドニヤのフィリッパ二世の金貨の意匠が見られるからである。フィリッパ王は西紀前三五六年にクレニデスの豊富な金鑛を得、三三六年王の死して後、その金貨がガリヤ部族により熱心に模寫せられ、そのタイプがブリテンに渡つたのである。かくして間接乍らも希英間の文化の交渉はあり得た譯である。思慮深き史家G.M.トレヴァエリヤン氏はもう既にこの事實を承認して、『既に西紀前一五〇年南ブリテンの諸部族はマケドニヤ諸王の金貨Staterから模した彼等自からの金貨を有してゐた。』(英蘭史一二頁)と記してある。因にシザーのプレトン人の通貨に關する記事の誤りてなくないつたことも等しく考古學的發見の結果に負ふところである。詳しくは大英博物館鐵器時代の古物案内、二版一六四頁以下の記事及び挿畫を見よ。(間崎万里)